

豊明市行政評価制度 「事務事業」評価票

1 ■事務事業の概要

1 事務事業の名称	老人憩いの家改修事業（主要事業）								
1－2 担当	部	健康福祉部	課 又は施設	高齢者福祉課	係	高齢者係	評価票作成者	高齢者担当係長	原田一也
1－3 総合計画における施策の体系	①節	保健福祉 「健康で安心して暮らせるふれあい・支えあいのまちづくり」			③基本施策	高齢者福祉		コード	2－2－2
					④単位施策(中)	高齢者等に対応した都市環境・住宅づくりの推進		コード	2－2－2－6
	②項	社会福祉			⑤単位施策(小)	人にやさしいまちづくりの推進		コード	2－2－2－6－1
1－4 事務事業の目的の精査	対象と対象の数	老人憩いの家 全 2 7 箇所		意図（対象を事務事業によってどのような状態にするのか）	昭和50年4月1より施設開所に始まり平成 5 年 4 月まで毎年建設し市内に 2 7 箇所設置されている。老人憩いの家は古いもので築 3 2 年経過しており、利用者の安全を図るためにも老朽化した建物を順次改修することにより、施設利用者の安全の確保及び高齢者の生きがい活動推進のための拠点や地域の中で虚弱な高齢者を対象とした介護予防教室等各種のサービス提供する施設として、更なる発展を図る。				
1－5 事務事業の内容	高齢者の、健康の増進、教養の向上やレクリエーション活動の場としての生きがい活動拠点施設と併せて、高齢者の介護予防事業の充実を図るため、地域の中で高齢者の閉じこもり予防を中心に介護予防事業の展開をするため、老朽化した施設の改修を行い施設利用者の安全を図るとともに、施設利用における機能の充実を目指す。								

2 ■事務事業実施の状況

2－1 事務事業の実施における基本認識	事務事業実施にあたって心がけた改善の取組み			社会状況等の事務事業がおかれる環境把握		市民ニーズの認識					
	平成18年度	高齢者に優しい施設となるよう配慮した施設改修や、施設利用者の安全を図るため、老朽箇所の把握に努めた。		高齢者人口の増加に伴い、地域高齢者の集いの場が求められている。		バリアフリーなど的高齢者に配慮した施設や、生きがい趣味活動の拠点や介護予防の拠点を求めている。					
	平成19年度	施設利用者の安全を図るため、老朽箇所の把握に努めた。		〃		生きがい趣味活動・介護予防の拠点を求めている。					
	平成20年度	〃		〃		〃					
	平成21年度	〃		〃		〃					
	平成22年度	地域高齢者から、生きがい趣味活動の場を求められる環境から施設利用者の安全を図るうえで施設の改善を行った。									
	平成23年度										
	平成24年度										
	平成25年度										
	平成26年度										
	平成27年度										
2－2 総合計画における単位施策成果指標	事務事業成果指標名			前期目標値(単位)	後期目標値(単位)	指標の説明					
	老人憩いの家利用回数（回）			4,600（回）	5,000（回）	地域高齢者の活動拠点として有効活用できているかを表す指標。27箇所の施設の総利用回数で測る。16年度実績は、4,355回。前期回数は4400回を目標に、後期は5,000回を目標とする。					
2－3 成果指標に係る活動実績とコストの推移（アウトプット分析）		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
	活動実績a（回）	18（回）	16（回）	7（回）	48（回）	24（回）					
	直接事業費b（千円）	2,129	3,152	1,317	5,373	7,926					
	人件費c（千円）	512	512	512	1,024	992					
	合計コストd（b＋c）（千円）	2,641	3,664	1,829	6,397	8,918					
	単位コストd／a（千円）	1回当たり 146.7	1回当たり 229.0	1回当たり 261.3	1回当たり 133.3	1回当たり 371.6	当たり	当たり	当たり	当たり	当たり

アウトプット実績（活動数値）の補足説明 ➡ a:地域高齢者が安全に利用できるよう修繕が必要な施設の改修回数（修繕、工事含む）を実績とする。 修繕 2 2 回 臨時交付金 2 回
b:事業費には、3.1.2.3修繕・工事に要した経費とした。 修繕 1,059,640 臨時交付金 6,865,950
c:施設の改修に必要とする事務時間（4週間分）とした。臨時交付金の事務時間（4週間分）とした。

2－4 成果指標に 対応する実績と達 成度の推移		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
	指標対応実 績（単位）	4,520	4,567	4,669	4,773	4,797					
	後期目標値 に対する達 成度（％）	90.4	91.3	93.4	95.5	95.9					

3 ■事務事業の自己評価結果

3－1 評価結果 (アウトカム自己 分析)		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
	単年度 担当課評価	A	A	A	A	A					

- 4段階評価結果

A：上位目的である施策に貢献しているので継続する
B：事務事業の実施手法や環境（予算的・人的）に改善が必要
C：縮小等、事務事業としての見直しが必要
D：事務事業の廃止が相当
- 判断の基準

①必要性（必要な事務事業であるか）
②公共性（公が実施する意味があるか）
③妥当性（ニーズに対して投入が適正か）
④効率性（結果に至る活動に無駄はないか）
⑤有効性（活動の結果が上位の目的に貢献しているか）
⑥市民満足度（事務事業が対象にしている市民を満足させているか）

3－2 評価の内容		今後の環境変化を踏まえた課題認識	次年度に向けて改善する取組み	事務事業の担当課としての単年度の取り組みの自己評価
	平成18年度	施設利用者のニーズの把握による修繕箇所の優先順位付けをすることで、費用対効果を高める。	費用対効果を高めるため、施設改修工事の必要ヶ所の検証をする。	手すりの取り付けや和式トイレを洋式トイレに改修等、高齢者に優しい施設となるよう配慮した施設改修工事に努めた。
	平成19年度	〃	修繕の箇所を検証し、優先順位を定めて実行する。	洋式トイレ化を重点的におこなった。
	平成20年度	修繕箇所の優先順位付けをすることで、費用対効果を高める。	施設改修工事の必要箇所の検証をする。	手すりの取り付けや和式トイレを洋式トイレに改修等、高齢者に優しい施設となるよう配慮した施設改修工事に努めた。
	平成21年度	〃	〃	全老人憩いの家に、AED及び温水洗淨便座を設置し、安心・安全な施設として利便性を高めた。
	平成22年度	修繕箇所をよく検討し、費用対効果を高めるとともに、明許繰越工事として老朽ガス管の取替え、地盤沈下による建物のジャッキアップ工事を発注した。		
	平成23年度			
	平成24年度			
	平成25年度			
	平成26年度			
	平成27年度			

4 ■事務事業の総合評価結果

4－1 総合評価の 結果		結果	審査会による改善方向の指示
	平成18年度	A	継続して事業を進めること。
	平成19年度	A	継続して事業を進めること。
	平成20年度	A	継続して事業を進めること。
	平成21年度	A	継続して事業を進めること。
	平成22年度	A	継続して事業を進めること。
	平成23年度		
	平成24年度		
	平成25年度		
	平成26年度		
	平成27年度		